

協働



令和6年9月17日発行

奥多摩町立奥多摩中学校

不便さの価値

校長 原 善 哉

奥多摩中学校の2学期も元気に始まりました。どうぞよろしくお願いいたします。

「便利さ」とは、「考えない」「工夫しない」「ガマンしない」と同じ意味である。これは先日人づてに聞いた、ある講演会の一節です。私はとてもショックを受けました。と同時に以前聞いた「便利な3Cが現代人から考える力を奪ってしまった。」という林先生(今でしょ!)のお話を思い出したので、今回はご紹介いたします。

はじめのCは、コピー(copy)。昔はお友達からノートを借りても、自分の手で書き写すしかありませんでした。それも次の日に返すために、ねじりはちまきをして一晩でやらなければならない。とても大変ですが、一生懸命頑張って書き写すことが、実はとても効果的な勉強となっていたのです。しかし今は10円払えば一瞬でコピーできるし、苦勞もしない。ノートもすぐ返せる。とても便利ですが、この便利なコピーが勉強する機会を減らしてしまったのです。

次のCは、コンビニ(Convenience Store)。昔は八百屋、肉屋、魚屋、果物屋、米屋、酒屋など、それぞれにお店が有りそして午後5時には閉店していました。だから買い物は「肉や魚は腐っては困るので最初に行くのはやめよう」とか「今日は重いお米を買うから最後に回ろう」とか「カレーにはリンゴを入れたいので、八百屋と果物屋も行かないとね」などいろいろ考え、距離や道順そして5時までに周りきるといった多くの事を総合的に判断し段取りを考えていました。24時間いつでも何でも手に入るコンビニはとても便利ですがやはり考える場面を減らしています。

最後のCは、携帯電話(Cellular phone)。今の主流はスマホですが、なかった頃は、お友達と待ち合わせをするにしても、駅前で会えなかったら「次の合流場所で待とうね」とか「家に親がいるから伝言しておいて」とか「駅の伝言板に行き先を書いておこうね」など二重三重に、次の手を考えて待ち合わせをしました。しかしスマホのある現代の待ち合わせは「近くなったらLINEするね」という感じでしょうか。もう考える必然性もないのですね。

いかがでしょうか。とても残念な感じがいたしますが、この3Cが私たちの生活に大きな豊かさをもたらしてくれていることも事実です。3Cがない時代に使っていたエネルギーを別の目標に向けてさらなる力を得ているケースもたくさんあります。この話の中で大切なことは「やらされ感」ではなく「やることが当たり前なんだという感覚」をもって実践することが自然に「生きる力を大きく育てている」と言うことではないでしょうか。更に「やることが、楽しい、好きだという感覚」まで高めることができれば、その力はもっともっと伸びていくことができるでしょう。

改めて襟を正し、「授業受けること」「決まりを守ること」「行事に取り組むこと」などのそれぞれの場面が、生徒達にとって「当たり前なんだ」や「楽しい、好きだ」と感じられるような奥多摩中作りに取り組んでまいります。

生徒達は、たゆみなく日々、奥多摩中学校に登校します。遠い通学路は、通うだけでも価値がある。道中の不便さを乗り越えることで、生徒達の忍耐力、行動力、脚力、社会性等、様々な力が身に付いているに違いありません。「かわいい子には旅をさせろ」「若い頃の苦勞は買ってでもしろ」先人達の思いが今更ながら響いてまいりました。生徒達が「不便さ」によって「考える」「工夫する」「ガマンする」ことを学ぶのならば、私は信念をもって提供したい。

9月「自分の良いところを知る」～短所を気にするよりも長所を伸ばすことが大切～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
自分の良いところを発表する	生徒一人一人の良いところを考え、伝える	子どもの良いところを伝える

出典：スポーツドクター辻秀一著「心の力コーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社